

取引先の調査を自動化、作業時間を最大 98%短縮する
「RoboRobo コンプライアンスチェック」に生成 AI を搭載、
さらに 50%の業務削減を実現

—記事を要約しリスクをレベル分けすることで目視での業務負担を軽減、精度向上に貢献—

オープングループ株式会社（本社：東京都港区、代表取締役：高橋 知道）の子会社であるオープン株式会社（本社：東京都港区、代表取締役執行役員社長：石井 岳之、以下「オープン」）は、取引先の調査を自動化し、従来の業務時間を大幅に短縮する「RoboRobo コンプライアンスチェック」において、新たに生成 AI^{*}を搭載し、LLM（大規模言語モデル）により判定精度が格段に向上したオプション機能（有料）の提供を開始いたしました。



コンプライアンスチェックの面倒な作業が
驚くほど楽になる

- 導入企業6,000社以上
- 上場企業ご利用数150社以上
- 法務、総務担当者様の生産性向上

無料で試してみる 資料ダウンロード

ロボロボ 検索

SBI証券 監修 弁護士法人GVA法律事務所 推奨

コンプライアンスチェック 実績
IPO 上場支援

2022年	2023年	2024年
15社	25社	10社

2024年5月末時点

上場企業ご利用数150社以上
上場に求められる調査品質を実現

お問い合わせ ▶

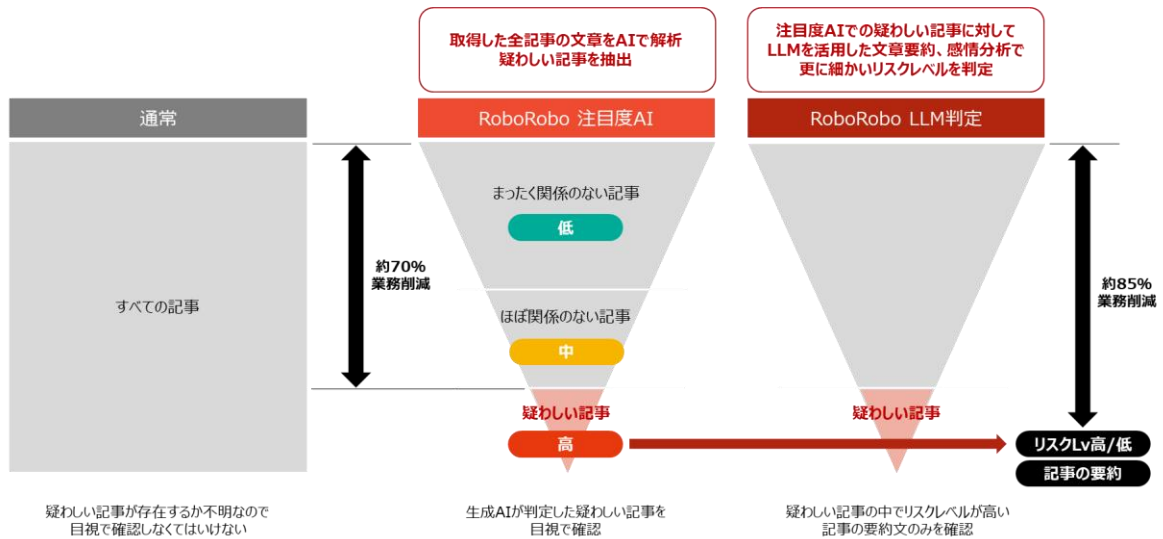
■最大 98%の業務負担軽減を実現してきた「RoboRobo コンプライアンスチェック」

生成 AI の搭載により記事を要約、リスクレベルを可視化し、さらに 50%の業務効率化を実現

オープン（旧：オープンアソシエイツ）が提供している「RoboRobo コンプライアンスチェック」は、取引先が法令遵守しているか、また企業倫理や社会規範に反するような活動をしていないかなど、企業のコンプライアンスチェックを自動化するクラウドサービスです。

「RoboRobo コンプライアンスチェック」では、企業検索において取得した全記事の文章を AI で解析し、「全く関係のない記事（注目度低）」「ほぼ関係のない記事（注目度中）」「疑わしい記事（注目度高）」と注目度別に分類することで、人間の目視チェックにおける業務負担を軽減しています。また、取引先の検索や検索結果の確認、証拠の保存などは自動化し、取引実施の可否判断など重要な判断のみ人間が行う、というフローを実現し、最大 98%の業務削減に貢献してきました。

今回、新たに生成 AI 技術を搭載することで、「疑わしい記事（注目度高）」の中でもリスクレベルを 2 段階に分けることで、目視確認が必要な重要記事の可視化だけでなく、記事文を要約することが可能となり、確認業務をさらに約 50%軽減することに成功しました。



<RoboRobo コンプライアンスチェックの仕組み>

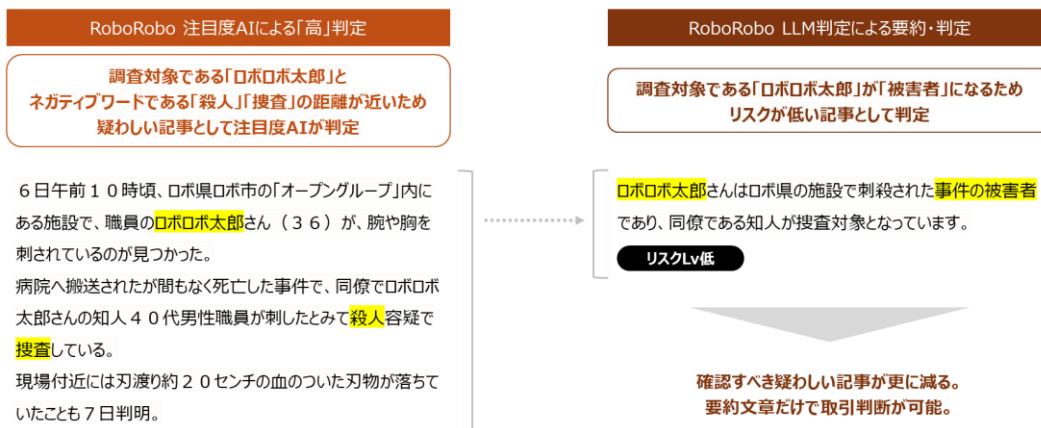
例) 調査対象のキーワード「ロボロボ太郎」

左：従来の「RoboRobo コンプライアンスチェック」

右：新たな「RoboRobo コンプライアンスチェック」

疑わしい記事を「要約」し、記事が本当に疑わしいかどうかの判定精度を向上させる

(以下例) 調査対象「ロボロボ太郎」



従来では、ネガティブワードが記事内に含まれていると、文脈や記事内容に関係なく注目度が高いと判定されていました。今回、生成 AI 技術を搭載した新たな「RoboRobo コンプライアンスチェック」では、まず記事を要約し、記事内容を解析することで、リスクレベルを 2 段階に分けます。文章全体の内容を LLM（大規模言語モデル）が解析することで、本当に確認しなければならない記事の抽出に成功しています。



今後も、オープンでは「RoboRobo コンプライアンスチェック」の提供および生成 AI をはじめとする新しい技術をビジネスシーンに浸透させていくことにより、様々な業界において業務効率化を実現できるよう貢献してまいります。

【会社概要】

■オープン株式会社 (<https://open.co.jp/>)

- ・ 本社所在地：東京都港区虎ノ門 1-23-1 虎ノ門ヒルズ森タワー8F
- ・ 設 立：2013年7月
- ・ 代 表 者：代表取締役執行役員社長 石井 岳之
- ・ 資 本 金：3,000万円
- ・ 事 業 内 容：スマートロボット（RPA、AI）を活用した情報処理サービス、コンサルタント事業
スマートロボット（RPA、AI）を活用したアウトソーシング事業
スマートロボット（RPA、AI）を活用したデジタルマーケティング、オンライン広告事業

※生成 AI：さまざまなコンテンツを新たに生み出す人工知能（AI）で、ジェネレーティブ AI とも呼ばれる。従来の AI と異なり、データから学習したパターンや関係性を活用し、テキスト、画像、動画、音声など多岐にわたるコンテンツを新たに生成可能。